

ここ数年、侵入犯罪は増加の一途をたどり、その手口は巧妙化、組織化している。防犯を考える場合に一番大切なのは、その狙いと手口を知り

十分にスキなく対処することである。例えば一戸建の場合、一番多いのはガラスを割っての侵入である。対策として考えられるのは、

ガラスを防犯ガラス（中間膜のある合わせガラス）にする

出入りしない窓には、頑丈な面格子をつける
雨戸をつける

窓に補助錠を取付ける
ガラスの破壊を知らせるセンサーをつける。

二階、三階であっても足場となるものがあれば上記の対策をする

等があるが、これらを組み合わせることによって、よりスキを少なくすることになる。

ただあまりに過剰にしすぎると、住まいの快適性を損なうことにもなりかねず、このあたりのバランスが難しいところである。

最近では、雨戸や面格子が可動ルーバーになっていて、防犯機能がありながら通風や目隠しができるものもあるのだ、そういったものをうまく使ってゆくのも一つの方法であらう。

玄関ドアからの侵入は、「ピッキング」被害は減少してきたが、最近では「サムターン回し」や「カム送り」と呼ばれる不正解錠が増加しつつある。これは、ドアに穴をあけて内側から解錠したり、鍵の隙間から工具を差し込んで解錠する手口で、対策としては専用の金具やカバーをつける方法、鍵を複数つける方法がある。

鍵を複数つけると開けるのに手間取り、だいたい10分で侵入できなければあきらめる確率が高いと言われているので有効である。

最近設計した住宅では、鍵を2ヶ所と、さらにもう一つを外側に鍵穴がなく内側からのみ施錠するタイプのものを取付けた。カンヌキの部分も見えなくして、外からはどこに鍵があるかわからなくしている。

また、最近の傾向として宅配便を偽って侵入する場合もあるので、すぐに玄関扉を開けずインターホンでまず送り主と品名を確認するのがよい。また、玄関扉の外側に囲われたゲートをつくり、ワークショップ置いて対応できるスペースをつくるのも有効である。

以上のように、手口が多様化している現在、住まいの快適性を保ちつつ、防犯対策をしてゆくということが、ますます大切になってきている。



・写真は、平成十五年豊の国木造建築賞優秀賞を獲得し、大分県知事から表彰された作品。